作成日：2023 年 6 月 9 日

学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ専門学校
2023年度 学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：藤田 直人

1. 開催日時 2023 年 6 月 6 日（火） 13:00～15：00

2. 開催場所 東京メディカル・スポーツ専門学校 校長会議室

3. 参加者 学校関係者評価委員（Zoom 併用開催）

委員長 牛込 公一 卒業生代表（一般社団法人ﾊﾟﾗﾌｪﾝｼﾝｸﾞ理事）
髙井 豊 業界関係者（医療法人社団森山会ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ統括部長）（Zoom 参加）
和田 清香 保護者代表（理学療法士科Ⅰ部科 2 年在籍）
森 章 高校関係者（拓殖大学紅陵高等学校 校長）
沼倉 英理 近隣関係者（行船管理有限会社 社長）
宇梶 義男 業界関係者（ムーヴアクション株式会社 代表取締役）欠席
藤野 浩一郎 業界関係者（TMG 本部 人財開発センターセンター長）欠席

学校側参加者
関口 正雄 東京メディカル・スポーツ専門学校 学校長
岩村 勇 滋慶学園 運営本部長 （Zoom 参加）
菅原 大輔 東京メディカル・スポーツ専門学校 事務局長
舘脇 康郎 東京メディカル・スポーツ専門学校 教務部長
藤田 直人 東京メディカル・スポーツ専門学校 学生ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ長

4. 会議の概要
⑴ 委員紹介
⑵ 学校長挨拶
⑶ 2022 年度自己点検・自己評価結果報告
及び 2023 年度重点目標の説明
（4） 質疑応答

●委員長挨拶
今回、委員会を司ることになりました牛込公一と申します。学校評価委員として、当初から関わさせていただいております。学校が少しでも良くなるために学生達が良くなるために言葉を少しずつ投げさせていただいております。今回から委員長としてやらさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

(1)委員紹介　各委員の紹介を行う
(2)学校長挨拶
　本日はお忙しい中、本校の学校関係者評価委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。学校評価委員会の位置づけについて、時折お話させていただいておりますが、新しい動きがあったのでご挨拶方々お伝えしておこうと思います。
　私は、全国専修学校各種学校総連合会で総務委員会の委員長を務めさせていただいております。私の役割は、文部科学省が専門学校について制度を定めるあるいは、変更する場合の専門学校側の実務責任者であります。職業実践専門課程の制度設計について、当初から文部科学省とやり取りをしていました。そんな関係で、まだ決まってはいないですが、おそらくそうなるであろうことをお話させていただきます。
　職業実践専門課程とは、専門学校の中で修業年限が2年以上あり、企業(業界)との連携を基軸としたいくつかの要件をクリアした学科を認定するものであります。専門学校約2800あるうちの約4割が認定されており、その認定要件の中にこの学校関係者評価委員会が設置されことがあります。また高校生対象ではありますが、修学支援制度の認定要件にもこの学校関係者評価委員会が設置されていることが条件となっています。この制度に認定されている専門学校は、約7割になります。つまり職業実践専門課程に認定されていない学科でも、学校関係者評価委員会が3割ほど多く開催されていることになります。学校関係者評価委員会は、皆さまに評価いただく訳ですが、外部の第三者評価の極めて厳密な評価とは異なり学校に関係ある方々に評価あるいは、感想・ご意見を求めるものになります。学校関係者評価委員会の規定では、委員の中で委員長を決めて委員の方々が主体的に委員会を進めることになっておりますが、現実的には学校の職員が会議仕切ってしまい、正しい運営になっていないところが多いようです。このことひとつとって見ても、学校関係者評価委員会が十分機能しているとは言えません。
　これに加え文部科学省は、職業実践専門課程の認定要件を学校関係者評価委員会にチェックさせて、委員長名で文部科学大臣に文書で証明させる案が出てきています。それほどのことを委員長にお願いするのは、いかがなものかと私は思い意見のやり取りをしているところです。ただ救いがあって外部が行う第三者評価を受けていれば、この委員長名の証明は必要ないということを私の方で提案しております。滋慶学園は第三者評価を積極的に受けており、本校も第三者評価を既に1回受けており、今年度も受審する予定になっております。次年度この制度が導入されるであろうと思いますが、職業実践専門課程の認定要件チェックと委員長名の署名は免除されることになると思います。
　ただ文部科学省では職業実践専門課程について、認定要件がクリアしているかを厳しく今後ともチェックしていこうという姿勢でいます。現在この認定校について国や都道府県から学校や学生に補助がでるようになってきています。きちんとした運営がされているかどうかチェックされるのは、当然のことであります。こういう流れが強くなっていることは、学校関係者評価委員会にその役割を負わすことは長い目で見ればつながっているかと思います。
　それでは、委員の方々の忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

(3)2021年度自己評価内容と2022年度重点目標説明
・学校概要の説明　学校の設立、学科、組織目的の紹介
(菅原)　お配りした自己点検自己評価表を見て頂くとともに、こちらの画面でご説明させていただきます。
　　なお今回は、例年と違った角度で P.P を使ってご説明させて頂きたいと思います。

2022年度の教育活動ですが、卒業生の活躍を説明させていただきます。卒業生の活躍（成果）が学校の評価につながると思いますので、トピックでご紹介させていただきます。
2008年鍼灸師科卒業の尾垣孝博さん：サッカーワールドカップで日本の A 代表トレーナーとして予選から帯同しました。サッカーの最高峰のチームで5名のトレーナーの中に選ばれて、活躍されました。
また他の4名のうち姉妹校 TSR の学校関係者評価委員の前田さん、本校 AT 専攻の教員細井さん、また元講師の方など滋慶学園との関係の深い方がご活躍されました。
鍼灸師科卒業生　藤本さん：アジアチャンピオンズリーグで優勝した浦和レッズでトレーナーをされています。
また、昨年度の就職において3名の卒業生がプロのサッカーチームでトレーナーとして採用されました。新卒で採用されることは、大変なことです。
プロ野球でも西武ライオンズのファームのチーフトレーナーとして卒業生の鈴木さんがおられます。
プロバスケットチームの宇都宮ブレックスでトレーナーとして片岡さんもおります。
このようにスポーツ系の就職に強い学校であることをご理解いただけたと思います。

次に学生の外部での活動をご紹介させて頂きたいと思います。
各資格の養成校であるので、カリキュラムは決まっており授業は行っておりますが、外部でのスポーツ現場の活動も盛んに行われておりご紹介させていただきます。
品川 CC イベント参加（トレーナーブース設置）
江戸川区バトミントン大会（トレーナーブース設置）
マニー・パッキャオマラソン大会（トレーナーブース設置）
国立競技場でのトレーナー活動
少年野球大会のトレーナー活動

次に数字をご報告させていただきます。
●中途退学者

年度	在校生数	退学者数	退学率
2022 年度	694 名	37 名	5.3%
2021 年度	701 名	41 名	5.8%
2020 年度	686 名	41 名	6.0%
2019 年度	665 名	59 名	8.9%

●資格取得状況

資　格	学　科	合格率	全国平均
柔道整復師	柔道整復師科	38.8%	65.4%
はり師	鍼灸師科	72.0%	85.5%
きゅう師	鍼灸師科	78.0%	85.8%
理学療法士	理学療法士科	89.6%	94.9 %

（菅原）国家資格試験については、昨年度柔道整復師国家試験の漏洩問題もありまして、全国的にも合格率が落ちました。本校は、その平均も大きく割り大きな課題となってしまいました。

●就職

卒業生数	180 名	離職率 0 名 0%	
就職希望者数	131 名	【就職希望率】86.8%	
内定者数	131 名	【内定率】 100%	【就職者率】 72.7 %
専門職内定者数	121 名	【専門職就職率】92.4%	
求人件数	680 件	昨年 995 件	

（菅原）就職希望者は、全員就職しています。

次に教育環境について説明させていただきます。
スポ―ツの学びがより充実してできるように、西葛西駅前のスポーツクラブ NAS と企業提携しまして木曜日に実技系の授業を行っています。
以上が2022年度の報告になります。

（牛込）次に質疑応答に移りたいと思います。
（森） 就職は100％と報告がありましたが、第一希望で就職した学生、第二・三希望で就職した学生の割合を教えてもらえますか。超一流のところに就職されていることは、教育の成果だと思います。ただ、そ

のようなところに就職出来なかった学生は、1年後、2年後に離職してしまうのではないか。高校でもそんな傾向があります。就職100％も大切だが、本人が希望して就職ができることが重要だと思うのですが。

（舘脇）就職して1年での離職率は0です。調査の仕方は、例えば柔道整復師の資格を持って、その資格を持って就職していない人がいるかを調査しているので、その意味では離職率は0です。
第一志望に関する受験者合格率は約80％です。冒頭にご紹介したトップチームに就職を希望する学生は、一握りです。多くは、治療院で働きながらスポーツに関わりたいという学生がほとんどです。そんな意味での80％です。本校は、トレーナー人材バンクというシステムがあり、トレーナーとして働きたい卒業生に事前登録してもらい募集があった場合、年度の途中であっても紹介をしています。ですから、決して学生の夢が絶たれてしまうようなことはせず、サポートしております。

（関口）専門学校としてもこれから全体として取り組まなくてはいけない話ですけど、従来専門学校に入学してひとつのことを一生懸命取り組み就職して、自分の将来を切り開いていくというのが主ですが、今はリカレントとかリスキニングと言われているように自分の可能性をひとつの専門性から幅を広げるなど、人間関係の中で違ったステージの仕事に就くなど可能性が大きくなって社会です。そういうことに対して転職だとか仕事の幅を広げるなどずうっと自分のキャリアを形成し続ける考え方を在学中の学習の中に取り入れていく、そのためには業界動向とか先輩たちがどんなキャリア形成をしているかを学校が調べて、このような筋道を歩んでいくということもあるのとを合わせて知っておくことも必要だと思います。その備えをしなくてはならないと専門学校では捉えています。

（森） 全国の高等学校で、このコロナの影響と小中学校の緩い教育が相まって中途退学者がどこの学校でも多いです。その退学者のうち、7割8割が通信制の学校に進路変更していきます。せっかく入学しても卒業できないというケースが高等学校にもあります。こちらの学校では、滋慶学園の他の学校に進路変更するようなことはあるのでしょうか。

（舘脇）実は私は、学園の進路変更委員会の委員であります。委員会は各校の情報を集めております。学生さんのなかには、先生のおっしゃるような悩みをかかえている方もいますので、そこは保護者の方も交えて丁寧に面談をして、場合によっては将来の再設計をして、転校制度を利用学生も若干名おります。製菓とか美容など少しフランクに楽しさを交えた勉強ができる学校を選ぶ方も多いです。もちろん同じ失敗がないように、体験授業の参加や保護者にも見学していただくようにしています。

（関口）本校にもサポート校からの入学生も若干名おります。中には精神的な障がいが原因で、転校して卒業して入学してくる学生もいます。障害者差別解消法が来年の4月に施行され、2021年に合理的配慮も義務化されています。学園としては、2016年に合理的配慮のマニュアルを作っており、どこまでやれるか事前に契約を結んでいます。その部分については、しっかりと取り組んでいます。ただやはりその配慮をしても、退学に至ってしまうケースもあります。

（牛込）私から質問させていただきます。自分の夢が叶った、また頑張っている人達はいいですが、そこに行きつけない人達のフォローなどは、どのように考えてらっしゃるのか教えていただきたい。

（関口）卒業生の状況をなかなか把握できない状況もありますが、今はキャリアセンターや担任ベースが窓口になり相談があれば対処するようにしています。

（舘脇）先ほどの人財バンクについては、ラインでのやり取りにするなど工夫をしています。収入や生活につ

いては、なかなか我々がその団体に働きかけることも難しい部分でもありまして、変に転職を促すようなことはしませんが、本人のキャリアアップ、成長に関することは積極的に関わっていきたいと思います。そんな点から卒業生に対してのサポートが皆無ということではないと考えています。
また今年は、同窓会組織を見直して学校の中の組織ではなく、卒業生主体の運営そして相互支援の形に変えることになっています。同窓会も活性化されると思います。

（関口）国家試験ですが、柔整が特に悪くまた他の学科も全国平均を割っています。不合格になった人は、再受験する方も多いと思いますが、再受験のフォローをきちっとやっていくということは、本校だけでなく国家試験の受験学校すべて同じ考えで取り組んでいます。やはりなかなか100％というのは難しいです。3年4年がんばって受験させることが大切なのか、合格するには厳しいとういことが本人や学校の判定でわかる場合、早期に他の進路選択を検討してもらう考えもある。 仮に不合格であってもそこで学習したことが、その先の仕事人生でそのことが活かせていけるとういゴール設定ができないのかとういうことも考えないと不合格のまま卒業するとそこで終わりになってしまう。学校としても不本意です。目標設定については、そのような発想をもたなくてはと考えています。合格された中での、誰もが最初からスーパーというわけにはいかない。実習を通じその分野が好きでその分野に飛び込めば、立場とかステップが早い遅いはあっても、やはりこの仕事もっとがんばろうとかこの仕事おもしろいなということが、原点にあれば必ずしも不幸なことではない。持続できるような仕事への関心などが在学中に持ってもらえることが大切なのではないか。

（舘脇）本校は国家資格に合格させる養成校であるのですが、入学を希望する学生はスポーツの世界で活躍したい思う学生が多い。学校コンセプトは、医療従事者としてスポーツを仕事にしようとするという人材を養成することである。
スポーツの現場に触れることを大切にしている。国家資格を取る意味を3、4年持ち続けてもらいたいとスポーツ関わりの授業を入れている。言い訳にはなるが、このコロナ禍で体験する機会が減ってしまい、将来像を具体化できない、迷いが生じてしまうなど影響出てしまい、教育も少し苦労してしまった。対面授業を中心として、何のためにこの資格を取ろうとしているのかという動機づけ教育を意識して行っています。学校長からは、単価年のことを考えるのではなく、1年から卒業までのフローで行うシステムを作り、また学習成果という形で表現できる場を作りなさいとお題をいただいております。

評価シートの記入について

（関口）事前に評価シートを記入してもらい持ち寄って、お互いの意見を見せ合うのが理想です。その方がより意見が深まるのではないか。

（牛込・沼倉）パワーポイントのデータなどもいただけたらいいのではないか。

（森） 我々の学校も評価委員会をやっているが、事前に授業やクラブ活動を見てもらっている。TMS も集合時間を早めて見学してもらうことを実施してはどうか。始まる前にトイレを借りて、学生さんが皆挨拶してくれました。そんな場面を見てもらえばいいとも思う。

（和田）ぜひやってもらいたい。

（関口）ぜひ実施したいと思います。

（牛込）お忙しい中、委員の皆様、先生方お集まりいただき、学校のためにとういう時間を費やせたことはとても有意義なことであったと思います。去年の数字を受けてどのように学校が対応しどのような成果を出すのか楽しみであります。今いる学生さん達がそこに対して一生懸命学んでいる姿を想像するだけでも有意義だと思います。大変だと思いますが、がんばっていただきたいと思います。そしてこの評価委員としては、どんどん学生たちが業界の中で活躍できるように願っています。

本日はありがとうございました。